

児玉安芸高田市長を囲んで

まちづくり懇談会を開催

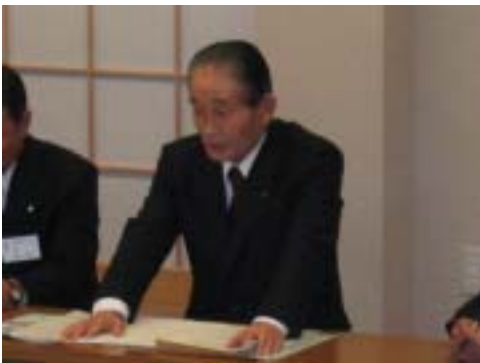


49名の参加がありました

児玉市長・市幹部職員の方から、丁寧で具体的な回答がありました

合併して周辺部となる地域の振興対策は？

行政改革に伴う支所の将来的機能など多くの質問や意見・提言をしました



上根・向山地域振興会では、児玉安芸高田市長を囲んでのまちづくり懇談会を十一月十六日、午後七時から二時間、上根集会所で開催しました。昨年に続いて二回目の開催となります。

今年も懇談会の質問や意見・提言は、限られた協議時間を有効に利用するため、事前に総務部構成員（区長）を通じて住民の皆さんからいただいた十一件の質問などを中心に行いました。

まちづくり懇談会は、先ず児玉市長から「安芸高田市の地域づくりの実践状況とその課題」というテーマで三十分程度のお話をしていただきました。（以下児玉市長のお話を抜粋して報告します。）

住民と行政の

協働のまちづくり

昨年の三月一日に合併して

一年八ヶ月あまりになります。が、順調なスタートが切れたと思えます。高田郡は介護保険の事務をする広域連合や消防・し尿処理組合などよくまとまっています。

合併協議においても、市の名前や庁舎の位置で合併が進まなかった所が多い中で、合併協議会では五十二の協議事項をすべて全会一致で決定されました。来年の三月には広島県に八十六あった市町村が二十三市町になります。

合併して何が良かったかと言われますが、逆に合併しなかった方が厳しい状況になっていると思えます。財政面から考えても国・市町村の台所は火の車です。合併によって厳しい状況を乗り切って行くと言うのが実態です。平成の大合併は市町村の「生き残り」をかけた合併です。

ハード事業は必要なものだけ実施します

道路や学校といったハードの施設面はかなり良くなっていますので、これからはソフトに重点を置いた施策が重要



土師ダム下流の農産物処理加工施設建設予定地

だと思えます。ただ、第二庁舎・文化ホール、広域葬斎場、特別養護老人ホーム（向原町）、農産物処理加工施設の建設については、積極的に取り組みたいと考えています。

第二庁舎については、現在、本庁舎が四箇所に分散しているために図書館などを含めた文化ホールを併設して来年の三月頃には着工します。

広域葬斎場の計画は、五年前から広域連合の一つの事業として検討してきました。これからは過疎高齢化により集落で葬式ができないことも考えられますので、火葬場に加えて、そこで法事もできればお通夜もでき、遠くから来た

人が泊まることができる広島市にあるような葬斎場の機能を持つたものが必要ではないかと思っております。

場所は吉田町内で適地がないかと調整中です。また、北広島町も入れてほしいという要望もあり、今後検討してまいります。

向原町の特別養護老人ホームについては、他の町にはそれぞれ特別養護老人ホームの施設があることから、今年度建設しております。

農産物処理加工施設は、地元八千代町土師地区の市有地に、事業費の二分の一の国の補助金を受け、いわゆる地産地消、地元の農産物を加工して付加価値を付けて売っていただくということ、現在、建設するための準備に入っております。広島駅弁(株)と農協と市が三セクを組んで会社を設立してやるということです。この加工施設により、百人位の雇用が見込まれ、また、食材として地元の多くの米や野菜が使われます。具体的には安芸高田市で農協が三十キロの

袋を二十万袋集荷しています。この加工施設で五万袋、実に安芸高田市の四分の一の米が広島市などに弁当として使われます。安芸高田市の米を使つたおいしい弁当を売つていくことは、大変いいことだと思えます。

心豊かな生活

「誇り」の持てる地域を

日本国民の所得は、世界的には高いレベルに入り、いわゆる成熟社会になってきました。ヨーロッパでは日本より所得が低くても非常に心豊かな生活をしています。戦後の日本は経済成長の中で、お金ばかりに執着する間に何か「心」を忘れてしまつてはいないか。今そういう反省の時代に入つていと思えます。

振興会活動ですが、先日、向原町に行つた時、「市長さん振興会は市役所の下請けをさせるんかいのー」と言われました。確かに市役所の下請けと思われる面もあるかもしれませんが、しかし、先ほどお話ししたように成熟社会では、古いものを大切に心豊か



地域が支える福祉活動
「三世代交流事業」から

に生活するために、どのように生きていくか、その一つが振興会の活動ではないかと思えます。

最初から「あれも これもせにやーいけん」と肩に力が入ると長続きがしません。祭りや体育行事と一緒にやる中で、お年寄りの福祉をどうしようとか、地域おこしをどうしようかと活動する中で、良い知恵もでてくると思えます。

児玉市長のお話の後、先述の十一の質問について市長をはじめ市幹部職員から回答をいただいた後、質疑応答を行いました。（質問と回答を抜粋して掲載します。）

質問 周辺部の振興対策について

広域合併により構造改革、コスト削減がなされ結構なことだと思えます。

このことは、大きな力が中央には働くが周辺部には及ばないという弊害を受けることになり、このまま成り行きにまかせると、やがて村が消えるという危機感を覚えます。

周辺部は交通も生活環境も劣悪で、活動層はことごとく都市部へ転出されているのが現状です。町の体力が弱体化の一途をたどる方向にあると思います。「地方のことは地方で」「地域のことは地域で」が理想ですが、こうした地域は企画力、アイデア、行動力は無いに等しいので、ハード面、ソフト面にわたり行政対応策の検討をはじめとし、情報収集、類似地域の実例などを通して実効ある提言を頂きたい。

回答 振興会を通して中央に意見が届くシステムづくり

合併する前から合併したら、

周辺部がさびれるとか中央に意見が届きにくくなるという話をよく聞きました。安芸高田市では、合併後も地域住民の声を施策に反映させ、きめ細かな行政サービスを実現させるため、合併特例法による「地域審議会」に代わる制度として「まちづくり委員会」を条例で設け、住民自治活動に連動した住民と行政の協働のまちづくりを推進しています。

この「まちづくり委員会」は、旧六町の振興組織から、それぞれ五名の委員を選出したとき、三十名の委員によって地域の課題や展望といった住民の声を、行政施策に反映させるシステムとなっています。

質問 合併によって良くなったことは？

合併後、以前より良くなったという話はあまり聞きません。行政として住民のために、この点が良くなったはずだと言えることがあればお教えください。

回答 合併は市町村の「生き残り」をかけた「選択」です

合併して良くなったという事はあまり無いのが実態です。しかし、合併していなかったら財政などを含めて、もっと大変な状況になっているのを現状維持で食い止めていることが最大の効果だと思えます。生活保護など福祉関係の事務が県から市で事務処理できるようになったことは、住民にとっては良いことだと思います。

質問 権限の委譲について

国から地方への権限の委譲が言われていますが、地方では逆に合併により、従来は町単位で処理できた案件でも、支所では対応できず本庁の判断や決裁が必要といったことが増えているようです。「地元で出来ることは地元で」という「かけ声」と矛盾しているようにも思います。いわゆる「お役所仕事」といつて時間のかかるのを抑えることがありますが、そうならないよ

う「権限委譲」はできないのでしょうか。

回答 支所に来られて不便になった点がありましたら、お知らせください

合併以前は、それぞれ町長さんがおられて速やかな政策的判断を行い完結していました。確かに六町が合併して政策的判断が必要な場合、お金を伴うものについては予算の裏づけが必要ですので、時間がかかる場合があります。今後、本庁と支所の効率的な事務分担の見直しを行い、支所で事務処理できることは速やかな対応をしたいと思えます。



八千代支所の窓口

質問 ボランティア活動に関する情報提供について

個人情報保護法の尊重は誠に大事なことです。名簿が頂けない（民生委員でも不可）ため、公平なボランティア活動に支障が生じていて、運営に非常に苦慮しています。この現状をどのようにお考えでしょうか。

回答 ボランティア情報は、地域活動の中で把握を

個人情報保護に関して国では法律が安芸高田市では条例が制定されていますから、集合名簿等は提供できません。しかし、ボランティア活動など目的がはっきりしているものについては、十分取り扱い注意していただくことが前提条件ですが、閲覧という方法で可能な場合もあるかと思いません。例えば、一人暮らしのお年寄り世帯などについては、民生委員や地域の方々が日ごろから連携を取って、情報交換をしていただければと思います。

質問 「潜龍峡ふれあいの里」の取水用井堰の災害復旧は？

平成八年にオープンした「潜龍峡ふれあいの里」は、現在、当振興会の拠点施設として位置付け、その活性化方策に取り組んでいます。

今年九月六日の台風十四号の大雨により「潜龍峡ふれあいの里」の池や水車に水を供給している井堰に大きな被害が発生しました。このまま放置すれば来年の大雨により、崩壊の危険があります。「潜龍峡ふれあいの里」は根の谷川の豊かな水を利用した公園です。取水用井堰の災害復旧についてご検討をお願いします。



潜龍橋の下流にある井堰

回答 県管理の河川ですので、今後、支所の方と検討します

「潜龍峡ふれあいの里」の井堰は、以前、農業用水を取水していたので農業施設災害での復旧も考えたのですが、現在、下流には田がないので、災害での復旧は困難な状況です。根の谷川は県が管理している河川でありますし、また事業費については振興会に市が助成している「特色ある地域づくり」などの助成金を活用して、補修してもらえないだろうかと考えていますが、もう少し時間をいただいで、支所の方と協議させていただきたいと思えます。

質問 可部バイパスの開通に伴う定住対策の促進について

平成二十一・二十二年頃には大林まで可部バイパスが完成すると聞きしましたが、バイパスが完成すれば上根・向山地域は広島市への交通アクセスは格段に良くなると思われまます。そこで、広島市への隣接地という立地条件を活



大林高架橋を下りた広交バス転回場で可部バイパスとつながります

かして、例えば、民間住宅の誘導策や遊休市有地の住宅地としての売却、公営住宅の建設など具体的な定住化対策を検討されるお考えがあるのかお聞かせください。

回答 土地利用計画の中で、長期的な活性化対策を推進

高度経済成長の時代は、民間の住宅が当地域にも多く建てられますが、現在では県の住宅供給公社でも経営環境が厳しい状況ですから、市が住宅地を造る時代でないと思えます。当地域は広島市に近いという利点を活かして、住宅地の供給だけに限らず企業誘致も含めた活性化策を土地利用計画などで誘導していきたいと思えます。

質問 旧根野小学校体育館の対応は？

旧根野小学校の体育館で今にも崩れ落ちそうな壁があります。近くには保育所もあり小学校の児童も児童館の行き帰りにたくさん通ります。屋根は瓦が二・三枚はげており、台風が来れば大惨事にもなりかねません。早急な対応をお願いします。

回答 来年度取り壊します

今年九月定例議会に取り壊しのための調査費を予算計上しました。来年度には取り壊しを行います。



北側の壁は崩落しています

質問 環境汚染問題について

上根・向山地区において、広島市（大林人甲地区）にある数箇所の焼却場から大気汚染の影響が平原地区にあり、また、根の谷地区では再生処理場による粉塵の影響があります。北広島町（旧千代田町南方地区）では産業廃棄物処分場が3箇所計画され水質汚染が懸念されています。

大気汚染の関係では、平原地区において定期的な大気汚染の測定を安芸高田市の方で実施していただきたい。また、水質汚染の関係では、現在、地点を何箇所か決めて定期的に調査されていると聞きましたが、南方方面から流れてくる根の谷川についても定期的な水質調査をして、地区住民が安心して住めるまちづくりを推進していただきたい。

回答 市独自の調査も検討します

現在、広島市大林に2箇所焼却施設があります。硫酸酸化物などについては年二回、



根の谷川の豊かな自然をいつまでも守っていきたい

ダイオキシンのついては年一回の大気測定を設置業者が実施するように法律で定められています。広島市も独自で測定をすると聞いています。安芸高田市も独自測定を考えていきたいと思っています。

水質調査については、毎年八月～十月にかけて八千代町内で六箇所実施しています。根の谷川においては八千代町と大林の境界付近で調査をしています。北広島町に産業廃棄物処分場ができた場合、北広島町との町境でも実施したいと考えています。

質問 無線放送について

八千代町だけの問題かもしれませんが、無線放送のアナウンサーがわかりにくいという話をよく聞きます。アナウンサー原稿をプツプツと切って読み上げるのでは、かえって解りづらくなります。他の町の実情は知りませんが、六町のアナウンサーを集めて学習が必要なではありませんか。

また、放送時間帯についても考慮いただけないでしょうか。

回答 全市をカバーできる情報伝達を検討します

八千代町と向原町とが無線放送、他の四町が農協の有線により放送していますが、吉田町では加入が半分にも満たない状況であり、全市に情報が速やかに伝達できるように今後、無線を含めどのような方法が良いかを検討する中で、問題を詰めていきたいと思えます。放送時間については、合併協議の中で六町が統一されています。



住民に身近な支所は必要です

質問 行政改革の推進に伴う支所の将来的機能は？

今後の行政改革を推進される中で、当然職員の削減も行われていくことと思います。現在の職員体制を将来的には、類似市町を参考にどの程度をお考えになっておられるのでしょうか。

お隣の白木町が広島市と合併して、白木出張所では窓口業務以外はほとんど可部の区役所に行かなくなはらなくなつて大変だという話をよく聞きました。高田郡の場合は対等合併なので少し白木町とは

異なると思います。しかし、いずれにしても職員体制の見直しの中で、当然支所の職員の大幅な削減は避けてとおることができないと思います。

今後とも本庁と支所の効率的業務分担はいろいろと検討されると思いますが、行政改革推進によって支所の機能が白木町のように窓口業務だけになるのではないかと危惧しております。将来の支所機能の方向性をどのように考えておられるのかお尋ねします。

回答 市民の利便性を低下させないことを第一に考えて

基本的には行政組織のスリム化は、避けて通れないことと思っております。国の基準では住民百人に対して職員が一人ということになっております。安芸高田市では現在の職員数（現在、消防を除く職員約四百六十人）から百人を減らす計画であります。これに伴い支所も縮小の傾向にあります。身近な行政サービスを低下させないように、効率的な事務が行われるよう、条

件整備を実施していきたいと考えています。

地方分権で県から市町へ権限が委譲されてきていることから、職員が減ったが住民サービスも低下したというのではいけませんので、場合によっては職員を百人減らすことができないこともあるかもしれません。

今後、定員管理計画を策定し、行政サービスの低下を招くことのないように職員数の削減に取り組みます。

質問 八千代町の下水道整備状況について

八千代町の下水道整備が遅れています。下水道工事の現状はどのようになっていのでしょうか。また、これからの予定はどのようになっていのでしょうか。町民の一人として普及を早く進めていただきたいと思えます。

回答 特定環境保全下水道事業（以下「特環」という）で実施しています

現在、「特環」の整備計画に



勝田・北原地区に建設中の浄化センター

沿って、平成十五年から浄化センターの建設に着手し、平行的に勝田・佐々井と管路の敷設工事を行っています。

全体工事期間を当初の十五年から二十年に見直しをしております。

ご承知いただいていると思いますが、国の厳しい財政状況の中で、今後計画が長引くことが想定されます。はっきり上根へ何年度と申し上げることができませんが、ご理解を賜りたいと思えます。

上根・向山地域振興会

第3回グラウンドゴルフ大会

さわやかな秋空のもとで上根・向山地域振興会主催のグラウンドゴルフ大会を10月23日(日)午後1時30分から根野交流広場で開催しました。

今年で3回目の開催となりますが、子どもからお年寄りまで約150名、30チームの参加がありました。当振興会では「とにかくできることを楽しくする」をモットーに各種事業を計画し、実施しています。来年も多くの参加をお待ちしています。



カメラ スケッチ

子どもからお年寄りまで
楽しくプレーをしました



右から優勝・日南上行政区 山野詔三さん
準優勝・日南中行政区 神川八重子さん
第3位・日南中行政区 岩下雅俊さん

根野交流広場の清掃活動

10月22日(土)根野交流広場の草取り・トイレの清掃を実施しました。翌日開催するグラウンドゴルフ大会で気持ち良くプレーができるようにと多くの参加があり、途中から小雨が降るという天候にもかかわらず、70名近くのお手伝いをいただきました。



「霧切谷」の遊歩道への取り組み

上根と根の谷を結ぶ「霧切谷」について、当振興会で遊歩道に向けた取り組みを行っているところです。

10月8日(土)午前8時30分「潜龍峡ふれあいの里」に集合し、「霧切谷」の上根側と根の谷側入口とに分かれて、草刈や道直しを行いました。特に上根側からはミニショベルを使って入口付近に堆積した土砂を取り除きました。

今回は2月下旬～3月中旬にかけて、安全に歩けるために間伐材を利用した階段の設置や碎石の搬入を計画していますので、ご協力をお願いいたします。



長年の歳月で多量の土砂が堆積していました

上根・向山のまちの探険 ～宝物探訪～

当振興会では、昨年、地域マップづくりで実施した地域の宝物探訪を11月3日(祝)に行いました。昨年は時間が足りなくてゆっくり見て回ることができなかったため、今年は昨年見ることができなかった箇所を重点に探訪を実施しました。

私たち振興会では、次代を担う子どもたちに地域の良さを教えていきたいと考えています。来年度には、子どもを中心に地域資源を探訪する行事を実施したいと考えています。

参加者の声

- ・ 代々地域の方々に守り続けられている素晴らしいお宝に感激しました。
- ・ 久しぶりに自然の美しさを見直した気持ちで、とてもさわやかな気分になりました。
- ・ 上根に住んでいながら一度も行ってない場所に行き「ふるさと再発見」ができました。
- ・ これだけのお宝(地域資源)を多くの皆さんに知ってもらいたい。



竜王社：昨年は台風被害で行かれませでした



西光寺跡：本郷の世戸さんからお城の石垣のように反った石積の説明がありました

地域が支える 体験学習

当振興会では、自然体験、社会体験、地域の文化に接する体験など様々な形の「体験」は、子どもたちが育っていくうえでとても大切なことと考えています。

三世代交流の集い開催

子ども達が栽培の手伝いをした

そば・大豆を使いました

12月12日、上根集会所で三世代交流の集いを開催しました。振興会の事業としては3回目ですが、社協の小地域ネットワークでの活動を含めると今回で11回目となります。

当日は、八千代南保育園年長組5人、根野小学校3年生16人・6年生27人、ボランティア18人が参加して、そば打ちと豆腐づくりを行いました。子ども達はお年寄りの指導を受けながら、そばを麺棒で伸ばしたり、大きな麺切り包丁で切ったりして楽しいひと時を過ごしました。

当振興会では、「地域全体が大きな学校」ととらえ、今後も子どもから大人までが共に学び合う交流事業などの取り組みを推進していきたいと思えます。こうした地域行事に多くの住民が参加し、子どもの教育を考えることによって、子ども達は「地域の子供」であるという意識が少しずつ芽生えてくると思っています。

そばが太くなったり、細くなったりしました？



自分たちで作ったそばは美味しかった

大豆の脱穀作業を実施

11月15日、当振興会のふれあい部が大豆の脱穀作業を行いました。昔の脱穀機を足でこぐ作業でしたが、使い慣れた機械であったため、比較的短時間で作業を終えることができました。今年は台風の被害も少なく多くの収量がありました。



ふるさと 今昔

「潜龍橋」

国道 54 号唯一のアーチ橋

明治 23 年（1890 年）に旧県道が（広島松江線）
開通して、広島県内と山陰地方とを結ぶ幹線道路
として以後重要な役割を担ってきました。

しかし、時代の変遷に伴い交通量が増加し、道
路の拡幅が求められるようになり、昭和 15 年～
昭和 18 年（1940 年～1943 年）にかけて拡幅工
事が行われました。

拡幅工事で特筆すべきことは上根峠の路線変更であります。上根峠は急勾配の難所であったため、明治 30 年～明治 35 年（1897 年～1902 年）頃にかけて箱根峠と同じように、敷石の敷設が約 1km にわたって行われました。この石畳によって高低差約 90m の間に 37 箇所のカーブがあるにもかかわらず急勾配の路面は保たれてきました。

旧県道は、霧切谷（根の谷側入口）の上流約 50m 付近で根の谷川に架けられた「坂根橋」（現在も通行可能）によって根の谷川を渡り、「潜龍峡ふれあいの里」先での大曲では大型車が 1 回では曲がれない状態で、運輸交通の大変な難所でありました。

そこで、拡幅工事においては、近代交通の要求に応じた設計が行われることとなり、大曲の上流約 80m のところで、根の谷川を渡る「潜龍橋」工事が昭和 16 年～昭和 17 年（1941 年～1942 年）にかけて行われました。この「潜龍橋」は国道 54 号では唯一の珍しいアーチ橋になっています。

古い写真をお持ちの方、ご連絡ください。

連絡先 中川会長（ 3471 ）

神川事務局長（ 3108 ）



写真の裏面には、写っている方の名前が書
いてあり、八千代出身の方もおられました。

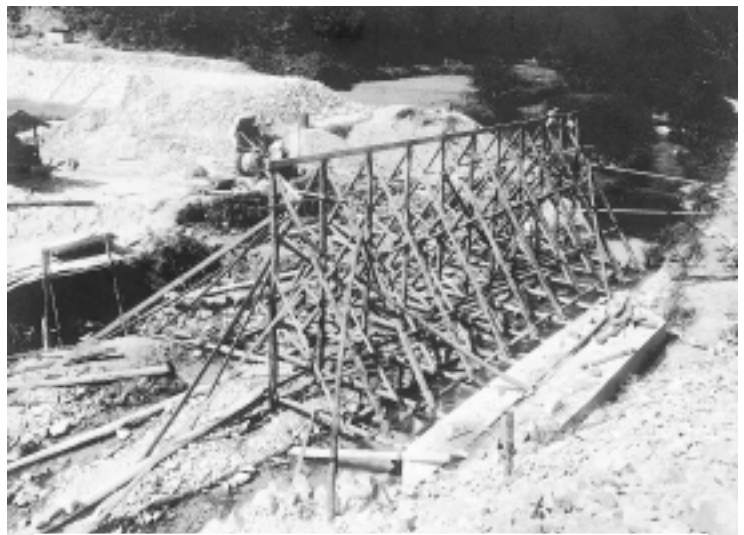
また、カミネ写真館と書いてあります。

この写真館は、市表と市下の境付近にあっ
たそうです。

写真提供 広島市安佐北区亀山南 平本輝昭さん



現在の潜龍橋付近



昭和 16 年建設に着工した頃の潜龍橋